

1

ふりがな むさしのだいちとあらかわていち

名称 武蔵野台地と荒川低地

地区

種別 自然

時代

指定



富士見市の地形は、武蔵野台地と荒川低地に二分される。氷河期に川の氾濫と浸食により形成された。浸食された所からは湧水量が多く、市内には多くの湧水地が存在する。

2

ふりがな ふじみしからみえるふじさん

名称 富士見市から見える富士山

地区

種別 景観

時代

指定



昭和31年(1956)9月30日に鶴瀬村、南畑村、水谷村の三村の合併で、富士見村が誕生した。当時、村内のどこからでもはるか西方の富士山をのぞむことができることから命名された。現在は、都市化が進み富士山が見える場所は少なくなってきている。

3

ふりがな 20すうかしよののゆうすいぐん

名称 二十数か所の湧水群

地区

種別 湧水

時代

指定



武蔵野台地の北東端に位置する富士見市は、海進と海退による浸食により台地は垂直に近い崖状が形成された。台地が低地へ移行する斜面の下あたる東京層(粘土層)と武蔵野礫層が断ち切られて、境付近から地下水が流れ湧き水となった。水がある場所に人は住み、歴史と文化を生み出してきた。

4

ふりがな ちのわくぐり

名称 茅の輪くぐり

地区

種別 民俗

時代 近世～現代

指定



茅を束ねて作った大きな輪を鳥居に取り付け、その下を神主を先頭に氏子が続き「水無月の夏越し祓いする人は、千歳の命延ぶというなり」と唱和しながら、茅輪と鳥居の間を8の字に三回歩いて、一年の無病息災を祈念するという6月晦日の神事。水子地区では7月30日に行われる。

5

ふりがな しないかくちのちからいし

名称 市内各地の介石

地区

種別 民俗

時代 近世～近代

指定



榛名神社、阿蘇神社、南畑八幡神社、上南畑神社、水子北側氷川神社、上沢薬師堂、正綱氷川神社、針ヶ谷氷川神社にある。

6

ふりがな きょうどしりょうとしてのえいぞう

名称 郷土資料としての映像

地区

種別 その他

時代 現代

指定



図書館、資料館、公民館に市内で撮影された写真や動画が存在する。アナログデータからデジタルデータにしておく必要がある。

7

ふりがな ふじみぶんかざいかるた
名称 富士見文化財かるた

地区

種別 歴史
時代 現代
指定



富士見市の史跡や名所などをテーマとした「富士見文化財かるた」が昭和47年(1972)に「ふじみ版画の会」と「富士見郷土史会」の共同で製作された。

8

ふりがな ふじみしないのさか
名称 富士見市内の坂

地区

種別 民俗、自然
時代
指定



鶴瀬地区:ギンバ坂、しつけの坂、ちょうべい坂、観音坂、堂坂、しんやの坂、まま音の坂、しょうやの坂、まましたの坂、三光院の坂、殿山の坂、宮坂、鶴瀬郵便局前の坂、土橋の坂、高田屋の坂、せきねの坂、房中坂、関沢の坂
水谷地区:鶴馬の坂、油坂、般若院の坂、松の木坂、岡の坂、神明坂、石井坂、山王坂、宮坂、堂山坂

9

ふりがな しのはな「ふじ」
名称 市の花「フジ」

地区

種別 植物
時代
指定



昭和57年4月10日に市制施行10周年記念に際し、市の花「フジ」が制定された。市役所の隣にある中央図書館のまわりには、400メートルにもなる「ふじ棚」があります。4月末には紫色の優雅な花が目を楽しませてくれる。

10

ふりがな ふじみしほぞんじゆ11しゆ73ほん
名称 富士見市保存樹11種73本

地区

種別 植物
時代
指定



民地の巨木を市が保存樹木として指定している。平成26年(2014)現在、11種73本となっている。市は所有者に補助をおこない、保存・管理を促進してる。

11

ふりがな むさしのぞうきばやしのきつねのかみそり
名称 武蔵野雑木林のキツネノカミソリ

地区

種別 植物
時代
指定



早春からスイセンに似た葉を展開し、夏草が茂るころには葉が枯れる。その後に花茎を形成し花を咲かせる。キツネノカミソリはお盆ころに、ヒガンバナは秋の彼岸に花を咲かせる。名前の由来は葉の形がカミソリに似ているとのことである。

12

ふりがな むさしのぞうきばやしのきんらん
名称 武蔵野雑木林のキンラン

地区

種別 植物
時代
指定



山や丘陵の林の中に生える地上性のランで、高さ30~70cmの茎の先端に4月から6月にかけて直径1cm程度の明るく鮮やかな黄色の花を総状につける。花は全開せず、半開き状態のままである。かつては雑木林の林下や、里山の林下のどこにでも見られた花であったが、今や絶滅を危惧される花になってしまった。

13

ふりがな むさしのぞうきばやしのごんらん

名称 武蔵野雑木林のギンラン

地区

種別 植物

時代

指定



山や丘陵の林の中に生える地上性のランで、高さ30～70cmの茎の先端に4月から6月にかけて直径1cm程度の明るく鮮やかな黄色の花を総状につける。花は全開せず、半開き状態のままである。かつては雑木林の林下や、里山の林下のどこにでも見られた花であったが、今や絶滅を危惧される花になってしまった。

14

ふりがな くまがいなおざねのなをもつくまがいそう

名称 熊谷直実の名をもつくマガイソウ

地区

種別 植物

時代

指定



膨らんだ花の唇弁を昔の武士が背中に背負った母衣(ほろ)に見立て、源氏武士の熊谷直実にあてた名前。栽培のための乱獲によって自生を見ることは今やまれである。

15

ふりがな しやめんのかたくり

名称 斜面林のカタクリ

地区

種別 植物

時代

指定



桜の開花とほぼ同じ時期に咲く。地上に出ている部分の寿命が短く、わずか2～3ヶ月ほどで溶けるように消え去り、地下部だけの休眠生活に入るためにスプリング・エフェメラル(春の短い命・春の妖精たち)と呼ばれる。片栗粉は、ユリ科のカタクリの根茎からとれる澱粉であるため片栗粉とよばれている。

16

ふりがな すいでん・しっちのきしょうしゅしよくぶつたこのあし

名称 水田・湿地の希少種植物タコノアシ

地区

種別 植物

時代

指定



タコの足の様な花序を付ける。この様子を吸盤のある「鮎の足」に見立てたのが名の由来である。泥質地、沼、休耕田、河原など水位の変動する場所に多い多年草。花期は8～10月。現地踏査では、蛇島調整池で約30個体の群生が確認された他、柳瀬川エリアの放棄水田でも生育が確認されている。

17

ふりがな すいでん・しっちのきしょうしゅしよくぶつこつぬまはりい

名称 水田・湿地の希少種植物コツブヌマハリイ

地区

種別 植物

時代

指定



沼や川岸の湿地に生育するカヤツリグサ科の多年草。本州(関東地方、東北地方)に分布。花期は、6～8月。現地踏査では柳瀬川エリアの放棄水田で群生が確認された。

18

ふりがな すいでん・しっちのきしょうしゅしよくぶつぬまたらのお

名称 水田・湿地の希少種植物ヌマトラノオ

地区

種別 植物

時代

指定



岡虎の尾(オカトラノオ)と似ているが、花穂がまっすぐ立って葉も小さい。湿地や水辺に生育するサクラソウ科の多年草。本州、四国、九州に分布し、花期は、7～8月。現地踏査ではびん沼川の川岸沿いのヨシ草地内で20個体の群生が確認された。

19

ふりがな

名称 水田・湿地の希少種植物カワヂシャ

地区

種別 植物

時代

指定



川べりに生えるチシャ(レタス)という語源。若葉は食べられる。川岸や水田などの湿地に生育するゴマノハグサ科の越年草。本州、四国、九州、沖縄に分布し、花期は、5～6月。現地踏査では荒川の高水敷や砂川堀脇で生育が確認された。

20

ふりがな

名称 水田・湿地の希少種植物タウコギ

地区

種別 植物

時代

指定



葉の様子が樹木のウコギに似ていることで命名された。水田、溝、川岸などに生育するキク科の一年草。花期は、8～10月。現地踏査では柳瀬川地区の放棄水田などで比較的多数の個体が確認された。

21

ふりがな じょうもんかいしんのDNAをうけつぐむなぐろ

名称 縄文海進のDNAを受け継ぐムナグロ

地区

種別 動物

時代

指定



胸が黒いので「ムナグロ」、ハトより少し小さい。夏季はシベリアやアラスカで繁殖し、冬季は東南アジアやオーストラリアやインド方面などで越冬する。日本へは旅鳥として春と秋の渡りの時期に全国に飛来する。南畑たんぼの一定場所で一定期間羽を休める。縄文海進時代の海辺の位置記憶が脈々とDNAに刷り込まれているとの説もある。

22

ふりがな しないでえいそうすだちするおおたか

名称 市内で営巣巣立ちするオオタカ

地区

種別 動物

時代

指定



生息地の大規模開発などで数が激減し、昭和59年(1984)の全国調査で約400羽とされ、絶滅の恐れも指摘され、その後、オオタカは「希少野生動物」に指定され保護対象となった。その結果、数は急速に回復し、近年では街中へ進出しているとされる。その代表例として、平成25年(2013)に富士見市で初の営巣・巣立ちを確認できた。

23

ふりがな しのとりかわせみ

名称 市の鳥カワセミ

地区

種別 動物

時代

指定



自然愛護の心を育み、自然と調和したまちづくりを進めていくため、市制施行40周年を記念し、「市の鳥」に制定された。頭から背中にかけて翡翠色、お腹はオレンジ色をしている色鮮やかな鳥で「水辺の宝石」と称される。また、くちばしは小魚などを捕まえるために大きく、その姿はとても愛嬌があり、誰からも愛され、親しまれる鳥。

24

ふりがな きこうしたげり

名称 貴公子タゲリ

地区

種別 動物

時代

指定



全長:32cm、ハト大で冠羽が特徴。日本には越冬のために飛来する冬鳥である。河川、湿地、干潟、水田等に生息し、小規模な群れを形成し生活する。見通しのよい開けた場所におり、警戒心が強い。「ミュー ミュー」とネコのような声で鳴き、フワフワとした飛び方をする。

25

ふりがな たんぼをいろどるしらさぎたち

名称 **たんぼを彩る白鷺たち**

地区

種別 動物

時代

指定



◆チュウサギ 全長:68cm、ダイサギとコサギの中間の大きさで首が短く太い。越冬のため日本に飛来し、田植え前のたんぼ・休耕地など比較的乾いた場所で、主にバッタなどの昆虫を捕食する。
◆アマサギ 全長:50cm、白いサギでは最小。くちばしは夏も黄色。越冬のため日本に飛来し水田や草地に生息する。亜麻色の飾り毛と首が短いのが特徴。牛や耕作機の周りに群れて、飛び出す虫をねらう習性がある。

26

ふりがな さんらんそじょうするなまず

名称 **産卵遡上するナマズ**

地区

種別 動物

時代

指定



流れの緩やかな河川・湖沼から水田・用水路などに生息し、岩礁域よりも水草の繁茂する泥底域に多くみられる。水質汚濁には比較的強いが、河川や用水路の護岸化により繁殖場所を失い、生息数は年々減少しているものとみられている。古代から食用魚として漁獲されたほか、中世以降地震と関連付けられ、浮世絵をはじめとする絵画の題材にされるなど、人間との関わりを深めてきた。

27

ふりがな めだか

名称 **メダカ**

地区

種別 動物

時代

指定



昔は小川に普通に見られたが、1980年代あたりから農薬の使用や生活排水などによる環境の悪化、水路の整備などによる流れの緩やかな小川の減少、繁殖力の強い外来種(ブルーギルなど)の影響で減少の一途を辿っていた。平成15年(2003)に環境省がレッドデータブックに絶滅危惧種として指定したため、保護活動が活発に行われるようになった。

28

ふりがな ぎんぶな

名称 **ギンブナ**

地区

種別 動物

時代

指定



マブナと呼ばれる。止水もしくは流れの緩い河川等に棲み、おもに低層で活動する。雑食性で動物プランクトン、付着藻類、底生動物などを食べる。かつては、コイ同様、重要な食用淡水魚であった。甘露煮や鮒寿司は今でも食べられている。農薬の使用や生活排水などによる環境の悪化、護岸工事や水路の整備などにより減少傾向にある。

29

ふりがな ゆうすいふきんのせいりゆうにすむほとけどじょう

名称 **湧水付近の清流に棲むホトケドジョウ**

地区

種別 動物

時代

指定



水が澄んだ流れの緩やかな小川や細流、水田につながる水路などに生息する。砂泥底の水草の間や石の下に多く見られ、湧水のような水温の低い場所を好み高水温には弱い。体が太短くほかのドジョウ類とは違った印象を受ける。名前は、やさしそうな顔をしていることからつけられたと思われる。体調は4~8cm程度でドジョウよりずんぐりしている。

30

ふりがな ほんどぎつね

名称 **ホンドキツネ**

地区

種別 動物

時代

指定



平成18年(2006)5月、市内南畑の林でホンドキツネが営巣して4匹の子供を産んだ。その後数年は、新河岸川やびん沼川で確認されていたが、2匹は交通事故で死亡が確認された。残るは行方不明であるが、生息場所が限られる中で生き延びて欲しい。

31

ふりがな ほんどいたち

名称 **ホンダイタチ**

地区

種別 **動物**

時代

指定



小柄な体格ながら、非常に凶暴な肉食獣であり、オスに比べメスが極端に小柄である。イタチの毛を使った毛筆は高級品とされる。ノネズミの駆除として、農林業上有益とされる。また、狩猟獣として狩られることもあるが、最近では毛皮としての価値の減少から狩猟数も激減している。

32

ふりがな

名称 **水田を代表するトウキョウダルマガエル**

地区

種別 **動物**

時代

指定



体形が太く後肢が短い形態をダルマに例えたのが由来。流れの緩やかな河川や池沼、湿原、水田などに生息する。半水棲で、水辺から離れることはまれ。西日本に棲むトノサマガエルとは種は違うが近縁種である。開発による生息地の破壊、水質汚染、水田の減少、人為的に移入されたウシガエルに捕食されるなどにより生息数は減少している。

33

ふりがな うみからそじょうするもくずがに

名称 **海から遡上するモクズガニ**

地区

種別 **動物**

時代

指定



藻屑蟹／語源は、はさみ脚に毛が密集しているため。成体(親)は河川、湖沼で暮らし、秋から冬に産卵のために海に下る。汽水域で繁殖をし、小ガニとなって夏には河川を上る。食用として有名な「上海蟹」(チュウゴクモクズガニ)の同属異種であり、日本各地で食用にされている内水面漁業の重要漁獲種である。

34

ふりがな ゆうすいふきんのせいりゆうにすむさわがに

名称 **湧水付近の清流に棲むサワガニ**

地区

種別 **動物**

時代

指定



一生を淡水域で過ごす純淡水性のカニである。和名どおり水がきれいな溪流(沢)・小川に多いので、水質階級1(綺麗な水)の指標生物ともなっている。日中は石の下などに潜み、夜になると動きだすが、雨の日などは日中でも行動する。丸ごと唐揚げや佃煮にして食用にされる。

35

ふりがな みんちちかくにすむへびたち

名称 **民地近くに棲む蛇たち**

地区

種別 **動物**

時代

指定



◆アオダイショウ 人とともに暮らすヘビと言われ、都市部でも緑の多い公園や河川敷などに生息している。
◆ヒバカリ 無毒種だが、かつては毒蛇とされ「噛まれたら命がその日ばかり」と考えられていたことに由来する。水辺を好み泳ぐのが上手である。
◆シマヘビ 無毒ではあるが、歯は鋭く咬まれると痛い。主に耕地や河川敷に住み、草原や森林にも住む。

36

ふりがな りよくちこうえん

名称 **緑地公園**

地区

種別 **その他**

時代

指定



市内の公園としては、都市公園43ヶ所、緑の散歩道9ヶ所、市民緑地3ヶ所、県指定ふるさとの森1ヶ所がある。市は緑地を保全買取する為、基金を積み立てており、26年現在約4億の残高がある。
緑地面積が大きな公園としては、びん沼自然公園、水子貝塚公園、山崎公園、谷津の森公園、石井緑地公園などがある。